

FLOWERS

アネモネ、ガーベラ、アリッサム♪
様々な花が咲き乱れるこの季節に
おすすめの本を紹介します。



「花が咲く頃いた君と」
豊島ミホ著
双葉社
F1
篠崎ほか所蔵



「花物語」
上下巻
吉屋信子著
河出書房新社
BFヨ1-2
篠崎ほか所蔵

四季の花をめぐる4つのせつないストーリー。どの話も素敵ですが、「椿の葉に雪が積もる音がする」のおじいちゃんと雁子の物語が特に心に残ります。



「花のあと」
藤沢周平著
文藝春秋
BFフ
篠崎ほか所蔵

失った恋は、満開の桜でさえ花がおわった後のようにさびしい色にみせてしまう。“感傷”という言葉は、桜にこそぴったりなのかもしれません。



「花の名前」
(向田邦子全集第1巻所収)
向田邦子著
文藝春秋
918M1
篠崎ほか所蔵

“花の名前。それがどうした。”ただその一文だけで男と女にある深い溝を読ませてしまう。何気ない日常から人間の本質を見極めることが出来る稀有な作家・向田邦子の凄みがわかる短篇。



「花の巡礼」
高橋順子著
小学館
911タ
篠崎ほか所蔵

北原白秋、萩原朔太郎、三好達治など、花に魅せられた詩人たちの紡ぎだす詩歌と人生。詩人たちは愛する人を何の花にたとえ、恋を失った悲しみをどの花に託したのか。



「夕庭」
丸山健二・作庭
萩原正美撮影
朝日新聞社
914マ
篠崎ほか所蔵

最高の文学を志し、努力を続ける一方、ペンを鍛へ持ちかえて独力で庭園造りに挑戦する著者。その庭に咲く花々の素敵写真が、多数収録されています。



「きほんのフラワーアレンジ」
大高令子監修・制作
学研パブリッシング
793キ
篠崎ほか所蔵

花一本からフラワーデザインが始められる入門書。部屋に花があると、気持ちや和むというものです。毎日の生活に花をとり入れてみませんか。



「私の靴に飾る手作りシューズコサージュ」
河出書房新社
594.8ワ
篠崎ほか所蔵

飽きちゃって、下駄箱に眠っている靴はありますか？ 手作りの花やリボンのモチーフをつければ、世界で一つのあなただけの靴に生まれ変わりますよ。



「バラの卓上庭園」
村田晴夫著
講談社
627M
篠崎ほか所蔵

本書でいう卓上庭園とは、木材でつくった植木箱にミニバラなどの植物を植えたもの。現実には難しい庭造りも机の上のような小さなスペースならば思うがままです。ミニバラやローズマリー、タイムなどと一緒に、かわいい家の模型(作り方詳しく書いてあります)や人形用の小さな家具を配置したりと、選択肢は無数。あなただけの夢の空間ができあがります。



CD「フラワー・イン・ザ・サン (Live)」

(「エッセンシャル・ジャニス・ジョブリン」収録)
ジャニス・ジョブリン G1シ04094 篠崎ほか所蔵

にも淋しすぎる」と声を振り絞るようにしてシャウトするのです。あたかも、抱えきれないほどの孤独感を振り払おうとするかのように…。わずかに27歳でこの世を去ったジャニスの歌は、今も人々の心を揺さぶり続けています。

そのメロディに魅せられて♪

「若い頃の花は／太陽に向かって恋をしたわ／情熱は一時間ほどはもったけど／それから彼女の愛はしおれて行ったわ」と囁くように歌うジャニス。しかし、次第にアップテンポになり「もう、終わりのよ、アタシには耐えられないわ／こんな人生あまり

スタッフのセレクション！ 第17回

「幼年時代」

トルストイ著 新潮社 B983ト 西葛西ほか所蔵

あなたにとって幸福な時代とは、いつのことでしょうか？ 幼い頃でしょうか、10代の学生時代でしょうか、それとも、今まさにその時期でしょうか。19世紀ロシアの作家トルストイにとっては、幼年時代がその幸せな時代でした。「二度とこえぬ幼年時代の、幸せな楽しい時期！ その思い出をどうして愛さずにいられよう、いとしがらずにいられようか！」

24歳のトルストイはこの処女作で、自らの幼年時代を素材にして、「幸せな楽しい時期」を創造しました。これは自伝的な作品ではあるのですが、著者の生涯を忠実に再現した作品ではないのです。

話は主人公が10歳になった誕生日の翌々日から始まります。そして最愛の母の死でもって物語は終り、また「幸福な幼年時

代」も終わることになります。「あのころよりもよい時代なぞ、はたしてありうるのだろうか？」大人になった主人公は、そうつぶやくのでした。

ところでドストエフスキーの名作「カラマーゾフの兄弟」の最後に「子どものときから大事にしてきたすばらしい神聖な思い出、もしかするとそれこそが、いちばんよい教育なのかもしれません。自分たちが生きていくなかで、そうした思い出をたくさんあつめれば、人は一生、救われるのです」という言葉があります。もし、それが真実であるならば、幸せな時代を一つでも思い出として持っている人は、一生救われることになるのです。

さて最後にもう一度、あなたにお聞きます。あなたにとって幸福な時代とは、いつのことでしょうか？

※「カラマーゾフの兄弟 第5巻」ドストエフスキー著 光文社 B983ト5 篠崎ほか所蔵

物語



「園芸家12カ月」
カレル・チャペック著
中央公論新社
B620チ
篠崎所蔵

チェコを代表する作家、ジャーナリスト、劇作家であるチャペックは無類の園芸マニアだった?! なんと草花や野菜、果物など280種以上の植物が登場します。四季折々の庭仕事や草花を育てる喜びがユーモアたっぷりに描かれています。その熱中ぶりには驚くばかり。挿絵は兄のヨゼフ・チャペックが描いていて、ほのぼのした絵が良い味を出しています。

エッセイ



「春夏秋冬女は怖い」
吉行淳之介著
光文社
914ヨ
小岩所蔵

こよなく女が好きだった著者が、「女の怖さ」を考察していく具体的女性論。の中で、著者自身が妻と愛人の間に挟まれて苦しんだことを題材にして書いた小説の一節があるのですが、これが怖い。ある日、主人公のところに別居中の妻から薔薇の花束が届けられます。愛人の目に付かないよう物入れにそれを棄てるのですが…。